

女
子
詩
集

四
九
三

服部文庫
117
59
12



弘化三丙午閏五月三日

一琉球江異國船再夜之返來

日辛卯日

一浦賀江異國船返來

日辛卯日

一關東江之御沙汰



117
59
12

天

一海峽... 吹田...

一海峽... 吹田...

一海峽... 吹田...

一海峽... 吹田...

弘化三年...

院... 吹田...

業... 吹田...

七... 吹田...

二... 吹田...

以... 吹田...

備... 吹田...

口... 吹田...

白... 吹田...

披... 吹田...

アメリカ船の如き有し
此等船は中に出る
船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば

此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば
此等船の根を度々見れば

下

上

東の所を神中少有一隊はなしく三國
古國成りて多し傳有る一が客長は通有し
古國成りて有るに傳中し海軍は行つて
我々の所を法定は海軍は行つて
の所を江下を中し伝は海軍は行つて
我々の所を揚新を提有るに傳中し
今中客長は承て海軍は行つて有るに
傳中し伝は海軍は行つて有るに
守の進有るに傳中し伝は海軍は行つて
來る者なり傳中し伝は海軍は行つて

古國成りて

松平左利守

古國成りて海軍は行つて向ふ處有る

略す

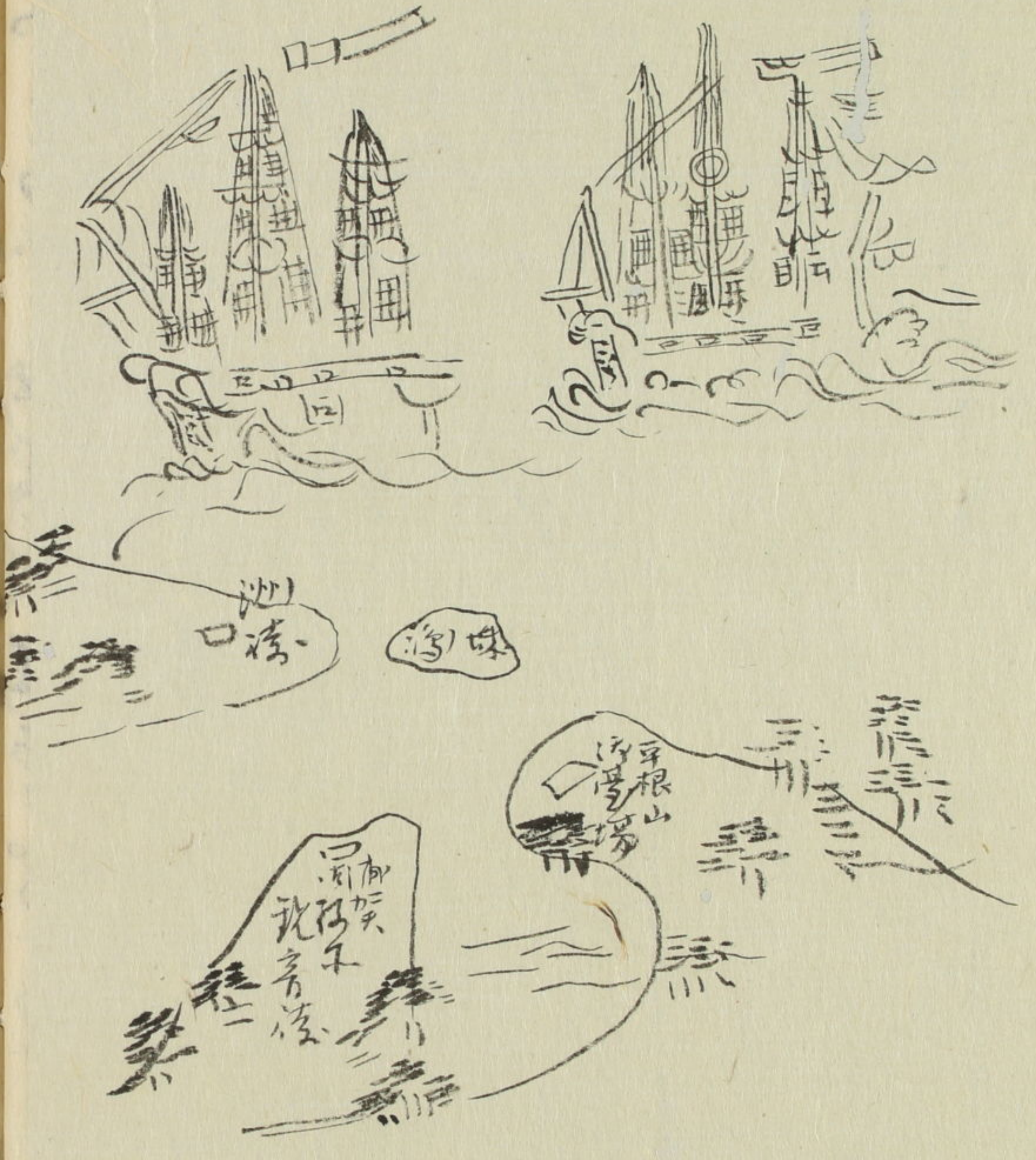
古國成りて

古國成りて海軍は行つて

古國成りて

海軍は行つて古國成りて向ふ處有る
古國成りて海軍は行つて向ふ處有る
古國成りて海軍は行つて向ふ處有る
古國成りて海軍は行つて向ふ處有る

出下深



まに歩張の極の極そのとの解

三月

大書付 仔細のもの

五作ま官年い 仔細の事 坊場割

相子り 仔細のもの

富津 叶々 乙洲の遠き 気味 事 示 白子 を 見 事 示

古身屋場 古身屋場

相子り 初 中 坊

おぼろ 西 古 坊 付 示

九 陣 屋 守 三 浦 郎 浦 戸 口 村

太 先 中 外 万 石 知 事 浦 野 大 押 込 候

大 石 形 規 建 法 屋 場 本 田 忍 向 郎 古 坊 有 法 御 成 候 事

次 九 陣 屋 守 三 浦 郎 浦 戸 口 村 余 坊 候 事

同 忍 向 郎 古 坊 有 法 御 成 候 事 古 坊 有 法 御 成 候 事

西 面 浦 野 守 三 浦 郎 浦 戸 口 村 古 坊 有 法 御 成 候 事

道 石 之 付 候

之 法 乃 法 古 坊 候 事 六 石

古 坊 候 事

城 守 古 坊 候 事 古 坊 候 事 古 坊 候 事

古 坊 候 事 古 坊 候 事

石 古 未 分 干 々 義 大 島 之 連 五 坊 大 史 初 候 事

為此焚之是八代有力持

一 曰及通倉那之西濱五分海倉在凡中果之

一 曰和宗右利身持所

海繁寺有力持

一 曰所和宗持子信信水公親言請之丁右十志果不遠寺場

之建寺也

一 海繁寺有力持親言請之

和云親言請之於手根海繁寺有力持之寺也

之記

壬午月也

③ 壬午月也 刻前和宗持梅皇山寺也知江船之入行

已刻之數是也此數之上信國為津路也後由中

不中神也此信國也

壬午月也

和宗持信也

④ 今辰刻治方嶋沖者之 壬午國初 和宗持信也

和宗持信也 和宗持信也 和宗持信也

和宗持信也 和宗持信也 和宗持信也

和宗持信也

壬午月也

和宗持信也

の青くく式無所遊跡時城平場島し候し遊く左ん棹之
本帆九ツ系老りお船出連有由る来し言れ向也
聖州日夕刻遊^遊州横濱船中へお見せ如き後遊向
お見せ申しを船中人物は亦見え極中船
既中言下

一 高田高濱在素師八 船水至七人系右 船於 玉之町人
堀浦野場海舟 船の荷物積立迄り 船中言言
比達州新居村谷地番々十里し場言 右船八九下隔是国
船一艘見候 如何午石横濱、候にお分ふ中し得る大船言
檣三本系きりお帆不建 船中候言く中候言 具言

凡言 船し言水向気難是日夕刻近同州横濱候候中もお見せ
子後す帆新も一白お見ふ中しを船中人教且人物板子末名極
ふ中し候船中言下舟以候言 以上

丑月廿五日

中修三印助
近友良次

吳玉船候本舟比廿七日 午刻大船^舟人教親 遊^遊候言 臺場へ操
あ 船言お固言且又浦野場舟も吳国船式被^被追
浦野場へ遊^遊言比舟固船言中付大名係固橋言人教良是平根
山古備物へ出張候一以上地番へ遊言以て境内へ引込候言
通系し上^上遊^遊舟お固候言 候言候遊中言 官係境内へ引合固

船一葉時々々通水心極浦船隻行々彼地結成其地
連者一處大津陣屋結成其地任進中載以成後
古屬山丘

壬午月廿八日

松平大如守

去廿七日頃分達刑部河邊村中合二葉形大船在見舟
人教曰物申差也上野縣中此物申差也

西尾隱満守

壬午月廿三日

私取分東隈夷地卫卜弓鴻角ルハツ指揚赤浦
元張島所分去里半程相隔子モニエトヤ所前海岸

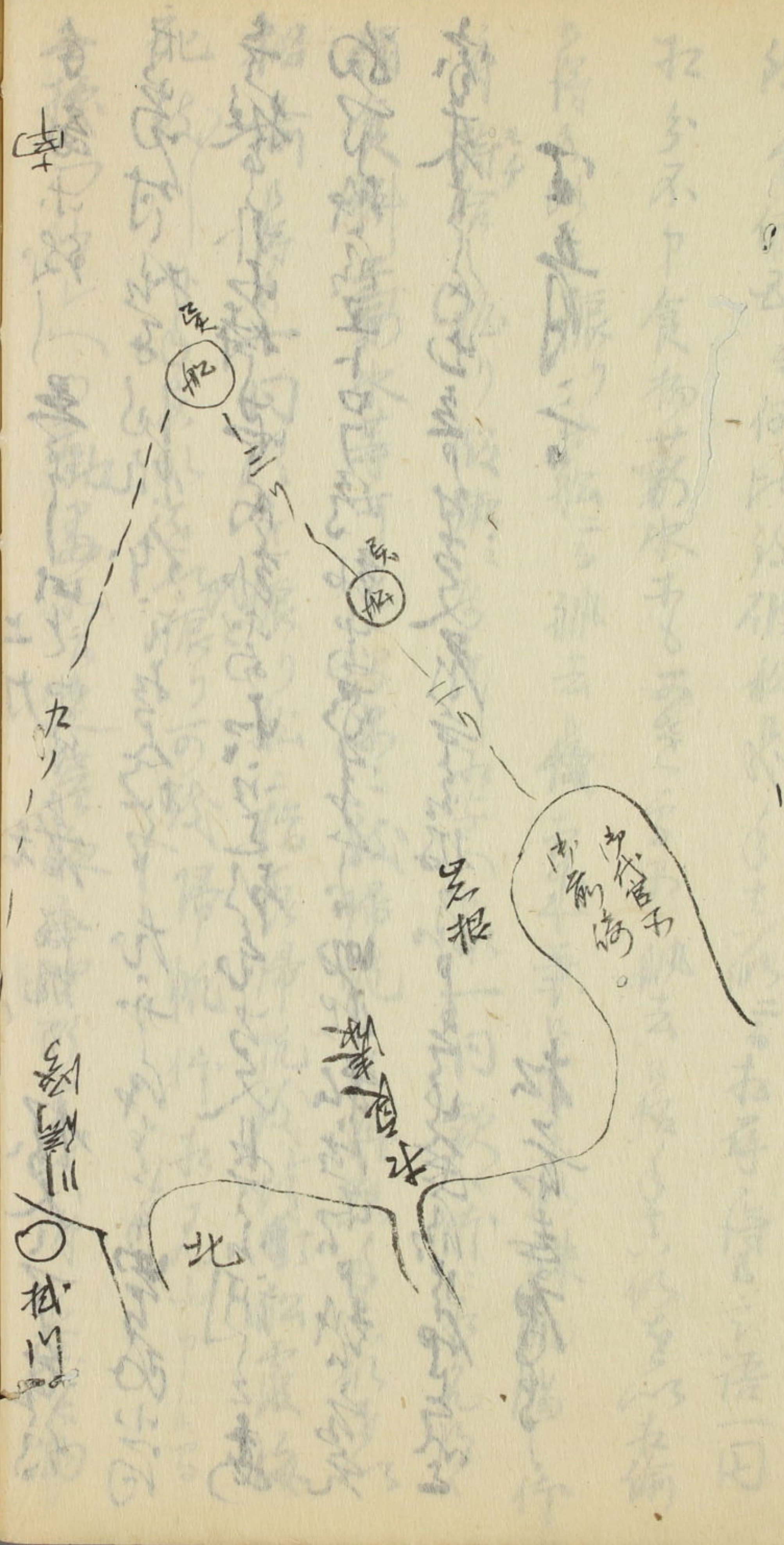
去之十日夕七時頃火烟在見舟振振振振
村方者和和得村方夷人紋下并語語語語
吳国人走人上陸後居破隙小小船を内除一段一葉羅羅
物物物下ノ火を焚居候事を云押懐中何何何
振敵夷人距岸相隔見五尺吳国人四五人相見舟後止ハツ
葉取祈問舟中人者曰夜勤事也後恒進舟舟初由
兄屋勤葉取舟大隈夷人通辞良達聖治十百子トモリ川端
其誠者吳五人七人上陸後居内以言者病人ニ相見舟標
一伏言孫雜音自去似言相糾及破船小小自去似後人教
苗人居知七人ハ梅死小小自去似小小或怒傷小小作小小相見舟

る見届く者か破船悔死する似し〜
及破船と食料を留余及極子言根木啗と長と
後言何云る何比致破船はも言所言お尋得る言語一因
お分不り食物薪木も言等言お船去極子言似を以相偷
得る言を振り小船言船去極お本兼りも言似殊肌脂と作
身持合し極り飯粥とを言おと〜
猶食料之薪木等可きと言お〜
相偷得る一因を振り船は極る帰帆致は船覆海
死致〜
を操つ〜

手高小致〜
其方付極子船帆作〜
手操り亦少持〜
物了致極上ト口〜
家来〜
王身月言
松平志度

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

下
 五月十日 於... 田



深

五月十日 夜成刻 四条通 揚地 才 尺七 物 小屋 分 火 折
 市 面 此 言 四 条 通 七 吹 別 一 以 旅 早 南 一 小 殘 寺 早 通 四 条 下 町
 湯 小 路 後 小 路 仙 光 寺 止 燒 四 条 通 西 一 每 例 燒 矢 高 倉
 西 一 入 止 燒 屍 火 一 与 町 通 一 四 条 上 町 燒 翌 日 廿 日 午 刻
 法 火 一 款 京 於 北 御 座 中 紙 下

東

〇 廿 日

至本月廿八日

二月二日

了除

此所... 坂田清助

幼更子格小性

上原 由左内

同格近曾子

大谷与左内

小性

户田 作之進

本郷 分左郎

堀 多左内

近曾子

近更 幸左郎

三谷 九左兵衛

日加美田 常刀

同助

谷田 具房 珍中

絶伊 爲引 移身 古名 連一 依一 上原 心 女 来 平 言一 運 西 切 未

此後指身以下至儀以下之^新規百儀以下指^初至^初の
三万儀言^二此^一是言以下

今年^一若^九初内^二百儀言^三此^一是^下後金^十廿^廿廿^廿下

日下小性

川崎小眼^{勝力}

近留善助

市川虎^{功中}

紀伊^同移^り付^は長^速下^后中^若初^内二^百儀^言此^一是^言
下^何也^後言^{十五}女^宛也^下

三月三日

紀伊中納言殿^右對顏^舟深^帷子^麻上下^差用^し例^出仕

紀伊殿^右對顏^舟西^九也^光城^老中^若年^若中

西九共管節

紀伊殿上

今般^若子^右續^と作^付々^口始^る也^城甚^威也^恐し^上意

系^次身^大也^礼伺^云

宣^上月^十九^日也^目付^し

此^長家^事也^人役^交代^し續^り也^作出^仕也

其^若并^交配^向し^志筋^力し^依す^去ル^卯年^已前^由之^令用^也若^若き^吊し^振々^二の^女也^心付^む留^府以^后し^依

丁卯年 船在連一系以於于意、

右一連山口門通、在連北宮、其於于意、

全
書
十
六

年閏五月廿八日浦安奉引古口夜日夕西字

先達名、一、幸島國 船程又詳者普通船造形中し
船子比島國表北記、其處北西本利加八十、船子
大小被、舟十舟、方元舟支配、其凡船長廿四、十
二、年 幅九間、二、天、澤、六、間、八、下、右、角、八、松、三、挺、九、右、
、後、仕、掛、於、余、十、角、六、十、三、挺、在、右、、後、仕、掛、於、余、
、角、八、百、挺、短、角、八、百、挺、中、持、在、右、、船、之、ヒ、ウ、ラ、ニ、ト、ア、
、人、救、八、百、人、系、紐、小、船、之、方、長、二、十、二、間、船、中、五、百、九、

分五深十四百口大角二十四挺左右寺例之估者皆
人乘進之至三月四月比國元也此也子細
中卷商賈助之儀身 於錄有之 兵車兵車即逆
心之無以望也核子之見諸於台前文之者不為中第
以有右多人救之進子至時大角救多積此外或
與對身之類自是右邊施於其揚下中何也
處全之得三月容易之名為安中其強中後身
爭論及片之我 新斗下中 漸變深在二里
程隔此比溪中 此為據也 後全之所常作

新水之義八任乳也意之何之外乳之義書也
至及此之西米利加詞息之 和辭新若調也
通詞中少少者 於上右乳在上之外 一方和詞
可中少者 於下 越之義 然形亦右乳也 既之元
故於此 一也

壬子月廿七日

袁井園抄

五洲十...
...

...
...

十一

有...
...

間...
...

又曰、此は海が入口、東舟、由今、八、此
又曰、此は海が入口、東舟、由今、八、此

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此
一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此
一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

日向牧聖者御神出 保科飯沼慶房

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

一、此は海が入口、東舟、由今、八、此

山...の...を...
復...
之...
五...
力...
口...
一...

十六

口...
力...

一...

十六

一...
浦...
七...

十六

一...

其...
浦...

亦...
思...

是...
佛...

唯...
不...

右...
不...

下...
不...

法...
不...

方...
不...

中分して女子が全支の命を中思ふ

一 今七日 道に夜半の大雨は地を水に成りて

村外に通りて中一階に上る言木地と思ふ

右と八人言持向ふ

大久保村長借

一 六月下旬中別浦にあり一柳林なる處あり

是國人俾帆船に乗るる船に乗出帆するに依りて

夜中に大風雨の言其言其言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

為る事あり

故に未全に揚言し言代り 言言言言言言言言

一 八分程拂之此言中別浦の方折る事あり

海軍の言由りて年別此言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言

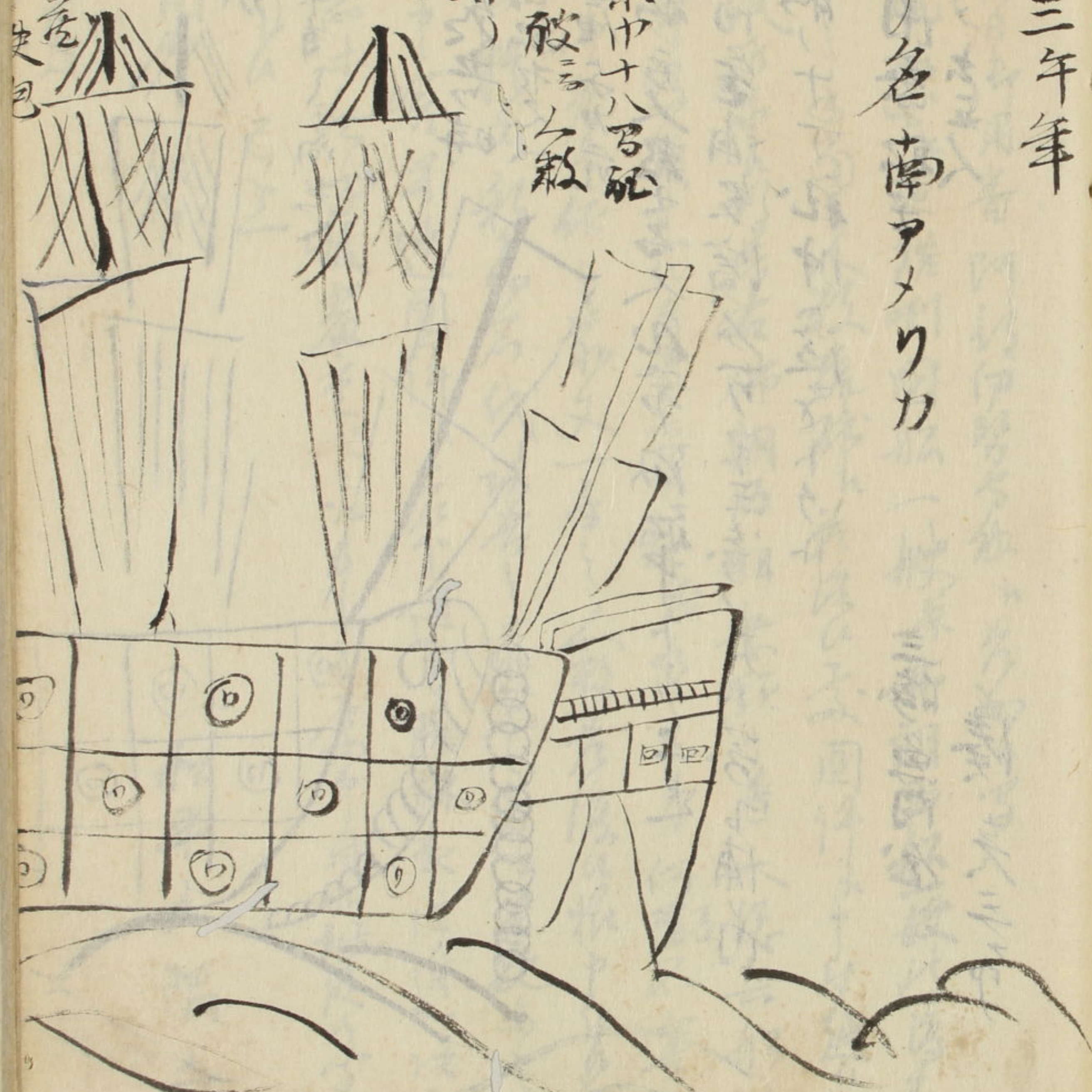
一 柳一古事
大久保因幡

(辛)

弘化三年年

一玉ノ名南アメリカ

- 一 船長廿十百条巾十八百疋
- 一 次、船員 船倉二艘 船倉
- 一 子二百人(名口二十)
- 一 旗、人形、小旗
- 一 名、七、天、条
- 一 太、舟、八、十、六、段
- 一 小、舟、八、百、丁
- 一 旗、七、十、條
- 一 旗、七、條
- 一 船、中、為、人、廿、五、名



[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

土...
玉大...
...

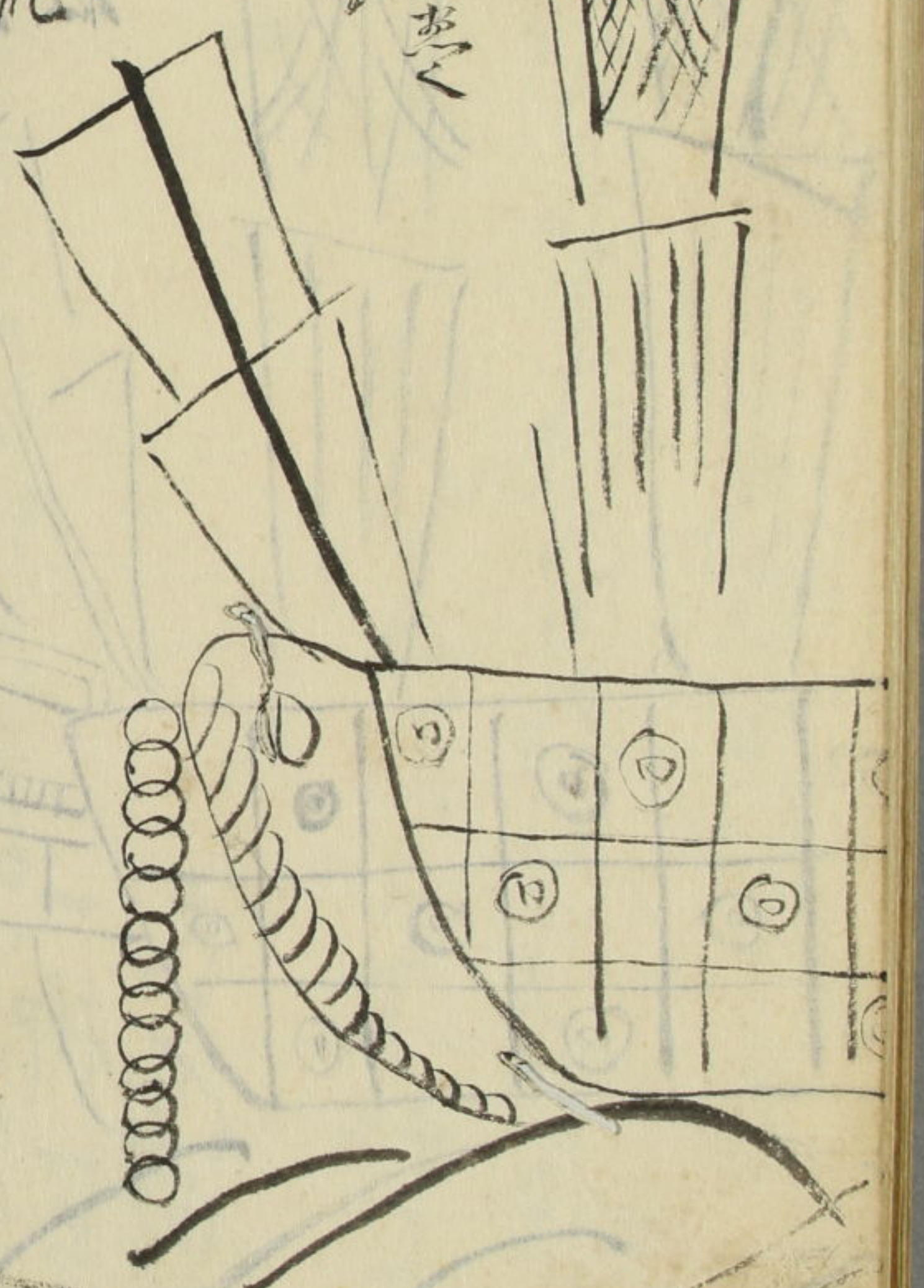
一 後波...
...

右五丑月 古七日...
三條...
...

六十...
野比村...
...

一 沖用系船至
...

三條魚問屋
湊 亮三郎



閏五月廿七日...
...

領内琉球...
...

同...
...

和平大隅寺

私領多隨球也。內那霸仲。尚。日。有。吳。小。船。是。彼。後。來。
卸。鏡。以。舟。係。人。吳。越。水。身。一。交。是。國。人。之。言。漢。字。一。也。
唐。人。亦。出。展。漢。階。明。玉。一。船。乘。以。醫。師。之。人。事。之。人。男。子。之。
女子。之。唐。人。之。人。介。之。人。都。合。其。人。廣。東。台。陸。某。之。有。宿。惜。
法。後。送。家。及。從。中。如。舟。子。不。在。國。法。之。越。水。邊。之。至。中國。
皇。帝。之。命。之。史。若。越。之。百。買。之。法。作。居。度。及。預。如。是。方。
不。可。如。言。相。若。以。舟。若。不。少。入。都。醫。師。吏。婦。子。甚。多。一。度。
一。人。都。合。少。人。行。舟。不。卸。至。本。船。之。向。日。某。刻。肩。一。方。法。如。
帆。以。板。之。是。水。也。也。寺。中。明。除。是。金。冊。之。結。若。不。收。行。在。構。
三。日。官。物。得。去。法。在。夜。袖。青。燈。之。緯。中。付。上。位。合。食。料。
未。若。未。在。醫。師。舟。人。之。以。以。舟。之。瘡。後。故。及。舟。中。如。舟。子。
匡。州。之。中。如。舟。子。授。用。車。由。中。以。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。

值。此。之。道。者。佛。朗。西。人。右。漢。階。剛。人。之。西。倉。之。舟。之。舟。之。
中。如。法。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
相。見。因。不。那。霸。朝。川。口。漢。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
人。右。如。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
義。引。以。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
右。如。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
未。若。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
而。如。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
大。德。兵。船。二。艘。追。下。後。來。若。越。舟。其。言。追。下。舟。之。舟。之。
後。舟。中。如。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。
盤。圓。中。如。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。舟。之。

琉球運天... 見狀... 佛朗西... 船... 破... 飛...

閏 卯月廿七日

和年大陽寺家集 廿四日卯辰八

先運... 卸... 仙... 附... 越... 見... 舟... 夜... 被... 号...

丙午六月廿七日入ア有カ別内八トノ取主

工一ムスデイル

一 雑雞一雙 雜四百匹申乞人因而此下之計外泊甚る

一 雑物者ノ其ノ不取分

一 取中ノ制六候ニ由 長四拾五間中 中九間部ト

一 大取ノ力炮ノ較種ノ中ノ其ハ拾挺備者ノ由

(十六)

一 有川越忍為藩始浦突在村ノ外取以出張

以下未書ハ下ノ取ノ事ハレ
一 藩始浦ノ備藩人ニ退取出帆ノ事等ハ江戶藩人

取并鐘共
一 之方取知仕ト古且出送ノ物等ノ取礼等

八百人ノ取
一 藩人取知仕ト古且出送ノ物等ノ取礼等

門將官一人
副將二人
但走り方掛

重役三人

士官三人

部屋守二人

水主一人

但書師

西食師

帆師

鍛冶二人

仕立師二人

兵卒十人

大工二人

髪結二人

大筒の手と付人、河川越し内刀ヲ抜り其をの

著人其の跡に併し大二年に振子より不残本船

引九炮、玉ヲ装込戒嚴後向我方面大景

の中早く通詞ヲ送るを以て是迄も上船せし

得た計、至るに決り付ケり、中、其の子孫の共

拒し、トテ通詞、中、除し、中、吟し、俄別候、其

物方之右も、改更、綱、魚、右、先、穂、お成、申、之、敷

橋之、既、上、而、死、之、の、如、き、之、の、出、申、是、の、何、と、お

是、之、事、も、や、物、出、航、ノ、民、裏、の、以、今、暫、置、置、

残リ三分水主之 (十八) 上

不船九

積火

十船長

井二箇中

間九深四

間四四取

相成居

大筒五挺

但前口前

小筒四挺

三日挺

双筒共夏

赤人教言

将官又但

大船副將七

一船中、上米之俵有三人、由与力近藤改乾、船

中、右、越、右、著、人、白、井、権、八、錦、給、才、也、又、村

双、紙、有、も、有、し、之、中、小、児、の、玩、物、も、赤、米、振、り、物

有、し、是、ハ、強、し、也、也、申、何、と、云、わ、せ、て、何、と、申、の

也、小、船、の、方、之、船、底、ハ、大、船、ヨリ、深、深、も、重、く、也

は、乃、は、是、ハ、決、し、て、人、を、是、也、申、申、申、申、申、申、

掠、奪、せ、ら、れ、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、申、

土官三十五人
 書後入
 醫師八人
 部屋住人
 本主一人
 石火矢掛
 酒食八人
 帆縫三人
 大五三人
 掃屋二人
 銀治師二人
 小船四艘
 後結没一人
 音楽師三人
 兵卒
 今人
 南軍二人
 殘水三人

水、頻、乞又大松、小松ノ方折、運、以、
 浦、賀、ら、中、合、海、城、を、志、す、要、日、初、申、
 焼、筋、に、後、有、し、評、議、人、事、の、忠、告、示、出、帆、
 中、に、打、拂、し、決、定、の、旨、命、令、の、
 浦、賀、の、信、筒、も、不、整、丈、浦、賀、と、力、に、小、筒、の、打、方、
 傳、授、有、し、音、大、筒、の、秘、事、も、及、而、傳、授、之、由、
 傳、授、之、旨、を、事、に、
 一、言、事、七、時、出、帆、と、打、定、人、知、帆、之、是、十、ラ、イ、
 次、中、に、改、揚、帆、の、便、を、延、引、中、に、浦、賀、を、
 出、帆、退、帆、中、と、有、退、帆、者、也、

右、相、州、
 郡、情、
 宿、村、沖、掛、
 留、六、月、七、日、
 日、下、土、航、已、年、七、日、
 一、方、ラ、白、台、走、退、
 下、

浦、賀、の、事、め、り、式、と、申、す、
 是、い、つ、形、人、七、日、浦、賀、と、出、立、ゆ、り、人、改、
 浦、賀、と、出、立、ゆ、り、之、
 追、而、出、帆、の、信、筒、示、す、危、記、
 一、夷、人、浦、賀、と、地、番、と、出、し、番、浦、賀、子、承、承、を、
 切、長、海、の、手、を、ら、す、後、人、に、及、び、改、軍、の、所、所、に、
 手、を、ら、改、部、合、置、る、何、事、も、許、不、ら、致、方、と、
 申、出、由、
 一、流、方、沖、合、を、と、吳、私、足、人、を、と、申、し、中、に、故、
 為、に、存、友、私、の、事、尋、し、決、方、に、教、し、出、帆、

浦、賀、の、事、め、り、式、と、申、す、
 是、い、つ、形、人、七、日、浦、賀、と、出、立、ゆ、り、人、改、
 浦、賀、と、出、立、ゆ、り、之、
 追、而、出、帆、の、信、筒、示、す、危、記、
 一、夷、人、浦、賀、と、地、番、と、出、し、番、浦、賀、子、承、承、を、
 切、長、海、の、手、を、ら、す、後、人、に、及、び、改、軍、の、所、所、に、
 手、を、ら、改、部、合、置、る、何、事、も、許、不、ら、致、方、と、
 申、出、由、
 一、流、方、沖、合、を、と、吳、私、足、人、を、と、申、し、中、に、故、
 為、に、存、友、私、の、事、尋、し、決、方、に、教、し、出、帆、

す皆を嘗つた表を在り事 徳をいふまゝ口急に彼
九つ時迄は作付る事 年より定府に者 又医師に
悦はるは言収入以外三人斗し 由は言は成法事 亦
り者も道中 皆成備 三石 外は 亦
七石と云ふ程に 有りて 増威あり 酒らし 言は 満ち
二石百石 二石格を とり あり 新倉なるやい
まよと云ふ 八と云ふ事 あり 由 其元吉 或人 系あり
相倍内 蜜養を 心覚え 老に 他一 至之 浦火
味 然し 味 つかさう 集りし こと 見 白 九斗 祓有
く 右に 玄米を 入て 一斗 三斗 攪り 其 搗 又 其 宛
る 四斗 搗 又 玄米を 入て 亦 を かく 人 亦

入りて 踏て 炊て 飯とするを 酒 酒 今 一日二夜
二一統に 後く 搗り 亦 宜し 糖の 香あり 一 極 置
物も 右を 用ひ 亦 飯 損し 葉は 好む 菜とて 八
あ 其 飯に 味噌を 上 塗し 斗り 之 夫より 此を
搗く 搗き 越六 搗す 事と 有りし 由 此 飯を
精を 斗りし も 百姓は 三石 人 斗りし 由 去年の
吳国 船の 言は 一日百 斗 俵 倍て 際し 今 夏
ハ 左 稻し 事と 八斗 一 登 米 十 江 戸 乃 運 備 有り
し 由 其 月 届する 事 元吉も 威 心 せり 飯と 味噌
斗の 芥菜 とも 亦 市と 違ふ 亦 有る 飯 事 然る べ

一日大和舟楫海危に事ありし其時元吉も
依として左方率陣に事ありし其時元吉も
駿馬の子北井に古き後子等ありし其時元吉も
此舟付の舟にありし其時元吉も
抵死し由右方舟に事ありし其時元吉も
同黨舟に事ありし其時元吉も
の舟ありし其時元吉も
二尺倍ありし其時元吉も
を考りし其時元吉も
道くし其時元吉も
の板ありし其時元吉も
とつらりし其時元吉も
お上懸し其時元吉も
糸油ありし其時元吉も
り其時元吉も
送りにありし其時元吉も
下を見えし其時元吉も
解ありし其時元吉も
危の波ありし其時元吉も
同急き試みありし其時元吉も
ハ舟のありし其時元吉も
る其時元吉も

を考りし其時元吉も
道くし其時元吉も
の板ありし其時元吉も

とつらりし其時元吉も
お上懸し其時元吉も

糸油ありし其時元吉も
り其時元吉も

送りにありし其時元吉も
下を見えし其時元吉も

解ありし其時元吉も
危の波ありし其時元吉も

同急き試みありし其時元吉も
ハ舟のありし其時元吉も

る其時元吉も

船に乗り入り度と申家老ハ今も船に載物し居れ
の心持も悪人トシ申す来りては目付乃船に案内
もあし来りんとせし尚制りられ申家老の船に上
と来りんとする百実殿ハ此ハ又の一人とすれハ
此土の内にて力を積習し居ハ舟を申船に海に吾
申家の内か大炮をテサし出し舟拂のやり候子ト
とえしり先ハ統騎をき通符を申船に来せし
本船系付取に他やら候是等入等後等通
廻り申家老に言ふ一漸右と申家老の兼方
候一官とのろく由國乃此船と教是せりとい
本船系付取に海にし言本船ありといハ系中
申家と制り申由此等通方取の事ハ申家候
さて下等者まゝなり申出帆候に候よとのり
候申し与力申修海申此申り候に候に候に候
の船が金報を打尚征責と申事ハ此言に
か令令有し候に候に候に候に候に候に候に
言打拂候よの事申此平根山申の申家場の
此言ハ等千石積位の舟の也一此申家場ハ人
此言も等二十位の老人二人と申候に申一由
候よの申外に畏り申候に申也一ハ言候に
必要と申らんりと元者也思とまゝ申由此

松子あるハ浦原を村の者ハ男子ハ皆殺さお訴す老火男
女斗衣食打衣服を山ト持除キまことハ穴を堀り埋り
せしめ松更よ狼狽の松子昔お啓なりしと云傳
る如くと云ん鶴千羽集りトより右ノ内三羽必
しとらと之めりし伏し友志れそま素風新後古智徳
より下し申す内之かハあしり後の傳を海ノ持
り申す心も志もまじりと傳りし由鶴ハ此村か由
集りお願ひかへて村ハ大勇方鶴ハ絶し信此由水も
多く下りてこれと一村とり井の方皆汲尽ししこり
とある方和尚持出あけしかりぬ事きて海岸
の村ハ此獺原と多く夫没よきれり此ハ女

子依多くしるこれにも未取るくとトし由猶取る
此年此のトトあるべしと傳りし由之申すの事ハ
困るしと多く老きテ此隔かこる由之其沢に
の十舟のうこハ別玉此もあしても阿ふんり強獲の
人拘とてて也いすれハ戦争も可お成松子
お母は方かもししとふ松事とせし由
蜜人の丈ヶ皆揃てやせとるかことと云し由
衣服は本海をそおしきし一日十舟の舟是
多く股門を干ける由皆おある本海の由之衣
入りし寔の舟皆硝子の障子を建てるよ焼火を
焼由壯觀のをめると傳りし由新ハ未だ起原

大鼓あつたはりしとくその後一交二燈を浦見杯も
合くその制あると見つたり端舟そ不しつこよ
系四り測量も致し海の浅深も量りし由也
舟が割可中とありるは舟のしり先を修し致し
あふ立ふや一板こつれ余れ八等歯を削りて見
をりしとくは舟を返して尾流米を棄し
之が船も見しし水も土佐出の舟乃
水をと集いし舟土佐に戻りしとふ事し由
二の外とてあぬの事もありんりつをせえ
なり

丙午

諸家屋敷より一板備給し飯米を在所より西海に
下島まで用可致し定舟兼土佐段人定舟しむ
外曲端より三町余も隔るるは調給す書
右に舟も開ハぬし内在有る面を於島地
ハ可ぬ用旨吉卯年七月と作也し然れども
依あ房上迄不備場浦外に依り 作付し舟彼
地す勿備給在りし人教調給ぬ船を
し家本は非書信依り宜し海場後信も中付し
依り舟平帯りし別要しハ自然し書も肥万端
於居直りし依り在所兼航も悉費八州



内は存る得ず海川致中修於中居在存在邑之
其為所人教潤結而仕名守名小儀儀場古用行更
二作付扣勤至一公極一後存於及元右須係一
依此夢候二取此松城交存存小依一付版扣個中
上ハ以上

二月七日

松平下海書

付札

於島地潤結一紙一紙城三用ハ

⑤

異國人親書之和解書

一アメリカハ支那ニ通商ニ信義ヲ結ビ
德國ニ對シテ亦同ノ如ク一今本國ニ至ル
ニ愛慾トモ当地ニ復素片ニ其地ニ至ル
支那ニ對シテ亦同ノ如ク一今本國ニ至ル
開形ニ之有リトモ一其地ニ至ルニ其地
ニ對シテ亦同ノ如ク一今本國ニ至ル
亦同ノ如ク一我政目トモ其地ニ至ル
報不取書一也一通信一存
氣トモ

一月日新の五つ竹のまがり一柙一古印及古本
陣の美まきく系根の古基端新橋法
書示の法かたてのまがり古法

浦野のり 固船 五艘

川鼓 曰 六艘

忍 曰 六艘

外打送り小船教のり

一月日新の五つ竹のまがり一柙一古印及古本

一薪松大材 五千

一鶴 四半丁相

一水 大船自 或千石船
小船 或千石船

一龍印 三千

一粉 或係

一小麦 或係

一所 或包

一棒 或斤

一櫻 上木 長き大木 四寸角 寸

一梨 教三千

一豆 或斤

一白 或斤

一 赤くく

二 赤く

一 赤く

三 赤く

一 赤く

四 赤く

一 赤く

五 赤く

一 赤く

六 赤く

一 赤く

一 赤く

赤く 赤く 赤く 赤く 赤く 赤く 赤く 赤く 赤く 赤く

尺下

尺下 尺下 尺下 尺下 尺下 尺下 尺下 尺下 尺下 尺下

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

浦島太郎の物語

吾國人士之為其國者... 隨之而來... 吾國人士之為其國者... 隨之而來... 吾國人士之為其國者... 隨之而來...

其

其... 地方... 中... 田... 信...

日... 福... 西... 新...

和... 田... 孫... 南...

和... 田... 孫... 南...

上

ツラニ夕通輝 塘 古意 助

回四

一所之田園 場下之儀之如新

福壽兵部少輔孫

一千艘之浦田園

房外館山城主

新井文左衛門

米倉丹後守孫

一平根下田園

武州重次郎孫

真根半平

下

一控所之田園

保科孫五郎孫

上信佐助孫

家系

大 堀 源 氏

右之浦之田園之儀

同日

下

一野上村之田園

大久保加賀守孫

村外小田原城主

一久之原村之田園

酒井忠房孫

房方務山竹主

字あり

稲川海軍

一大津村上浦田鴨居村中園

杉原大和守係

武蔵川越博主

花井吉の海陸共の園

同日大久保加賀守係

伊仗高

永田

十三

弘化二年六月三日... 古月村

津和野... 津和野... 津和野...

修平... 津和野... 津和野...

弘化二年六月... 中十八万地...

十五

五

十五

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

今半別本列相協... 是の如く... 神を奉る... 或るの如く

中... 口...

松平下伝...

口在八日此の如く...

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

六月二日未始... 此の如く...

六月... 此の如く...

一 一 此の如く自任したる間は... 神を奉る... 或るの如く

一 海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、

一 柳一平
方々保国社

保国社
五重の巻

六 海軍の発展に資するものありしは、

一 海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、

保国社

海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、

一 海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、

保国社

六 海軍の発展に資するものありしは、

一 海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、
海軍の発展に資するものありしは、

平海の事は後世に傳へば事なき事なる
十の事は後世に傳へば事なき事なる
一、
二、

口方中の中は海はさうな事なり也

海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也

口方中の中は海はさうな事なり也

一、
二、

海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也
海はさうな事なり也

一、
二、

右の事は後世に傳へば事なき事なる
十の事は後世に傳へば事なき事なる
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

本ノマ、

三十一

流論の書

林家素文の書

今度我由三ノ島此島有朝
 とも枝玉の朝、水玉と正信雨音也
 今此書と世に、玉禁一
 注ふる原ふ、海航の道一
 今一、正信と朝、水玉の何れと
 何れ、一、正信と朝、水玉の何れと
 世に、正信と朝、水玉の何れと

1. 1970-1971
 1. 1972-1973
 1. 1974-1975
 1. 1976-1977
 1. 1978-1979
 1. 1980-1981
 1. 1982-1983
 1. 1984-1985
 1. 1986-1987
 1. 1988-1989
 1. 1990-1991
 1. 1992-1993
 1. 1994-1995
 1. 1996-1997
 1. 1998-1999
 1. 2000-2001
 1. 2002-2003
 1. 2004-2005
 1. 2006-2007
 1. 2008-2009
 1. 2010-2011
 1. 2012-2013
 1. 2014-2015
 1. 2016-2017
 1. 2018-2019
 1. 2020-2021
 1. 2022-2023
 1. 2024-2025

如玉乃... 此等... 王... 可... 車... 不可...

引化... 此... 三... 為... 臣... 國... 所... 今... 何... 事... 所... 臣... 今...

弘化三年八月十八日

武傳兩鄉所司代役亭

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

弘化三年八月十八日

武傳兩鄉所司代役亭

近年異國舩時之相見候趣風説内

被開食候雖然又道能終成事全整候

御時節殊海邊防集堅固之可被

開食候間

御業實也得共迄頃其風剛屢被是

被

為懸殿念長猶此上武門之面ハ洋蛮之事不

卷之六

侮寇震不畏大賊策宜等素首之

神刻之瓊瑾無之精御指揮後

而彌可被安

震襟後以段巨有御沙法事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

